

まいるるパート II

令和5年度 No.4 校長室だより

通算No.22 (R5. 5. 11)

霧島市立国分小学校長

☆ 青少年赤十字 (ジュニア レッド クロス=JRC) について ☆

本校は、平成4年に**青少年赤十字加盟校**として登録し、各種ボランティア活動や募金活動等を行ってきています。

昨年度は、新たに**ペットボトルキャップの回収活動**を始めたり、青少年赤十字「**100文字作文コンクール**」で学校賞を受賞したりするなど、児童会活動を中心に積極的に取り組んできています。

先日5月9日のテレビ放送による全校朝会では、JRC活動の概要について子どもたちに説明を行うとともに、新1年生だけではなく、青少年赤十字の登録の証であるワッペンを配布したところでした。(ワッペンはランドセルにつけたり、家に飾ったりしてほしいと思います。)

さて、先日の5月8日は、赤十字の創始者といわれるスイス人の**アンリー・デュナン**が生まれた日で、この日を「**世界赤十字デー**」としています。

スイス人の実業家であったアンリー・デュナンは、1859年にイタリアの統一戦争の激戦地**ソルフェリーノ**において、4万人にもものぼる死傷者の悲惨な状況を目の当たりにします。そこでデュナンは村人とともに戦場に倒れていた負傷者の救護に当たりました。そして、「**苦しむ人々は敵味方関係なく救護しなくてはならない**」という思いを強く抱き、「**ソルフェリーノの思い出**」という本を執筆します。この本はヨーロッパ各地に反響を呼び、赤十字思想が誕生することになりました。

アンリー・デュナンは1863年、ジュネーブで**赤十字国際委員会**の前身である「**国際負傷軍人救護常置委員会 (五人委員会)**」を設立します。**赤十字は戦場において敵味方の区別なく負傷者の救護に当たることを目的とする組織**です。その後、アンリー・デュナンは赤十字の創設者として**ノーベル平和賞**の第一回受賞者となりました。そんなアンリー・デュナンの功績を讃えて1948年の赤十字社連盟理事会で彼の誕生日である**5月8日が「世界赤十字デー**」と定められたことになりました。

現在の戦争をはじめとした混とんとした時代において、アンリー・デュナンが「**傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない**」と考え、行動したことと同じように、このような大変な時代だからこそ、子どもたちにも、青少年赤十字の態度目標である「**気づき、考え、実行する**」という態度を育てていきたいと思っています。

また、この「**気づき・考え・実行する**」という態度目標は、文科省が大事にしている「**生きる力**」(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)を育成することにもつながるものと考えています。学習や生活の場面において、「**自ら課題に気づき、その原因や解決のための道筋を考え、問題解決のために実行する**」ことは、国語でも算数でも社会科でも、そして生活するうえでも重要なことで、まさに「**生きる力**」につながる大切なことだと考えています。

これからも、この「**気づき・考え・実行する**」を大切にしていきたいと思っています。そして、子どもたちから自発的な活動が表れてくることを期待したいと思っています。

※問題「青少年赤十字のマークの周りにある桜の花は子どもを表しています。その数は14です。それでは、その14は何を表しているでしょうか？」 答えは、全校朝会で子どもたちに伝えてあります。

